

## JAZA 将来構想 2025 の策定にあたり

気候変動や自然災害による危機、さらには新興感染症の危機、そして戦争や紛争などの影響によって、世界中の社会・経済・政治が大きく揺らぎ、不安定な状況が続いています。世界は激動の時代へと突入しました。このような世界情勢の変化は、国内の動物園水族館にも少なからず影響を与えており、運営面でも多くの課題に直面しています。

しかし私は、そのような現状だからこそ、動物園水族館が何のために存在し、社会に対してどのような役割や意義を果たすべきなのか？を、改めて真剣に考える必要があると感じています。

公益社団法人日本動物園水族館協会（JAZA）は、今から 86 年前の 1939 年（昭和 14 年 11 月 17 日）に、当時の恩賜上野動物園長であった古賀忠道氏により、日本動物園協会として設立されました。翌年には、日本動物園水族館協会と名称を改め、19 の動物園水族館が参加する任意団体として活動を開始しています。その古賀氏は、第二次世界大戦からの復員後、「Zoo is the Peace（動物園は平和そのもの）」という、今なお心に響く言葉を遺されています。

JAZA の DNA とも言える古賀氏の意志を受け継ぎ、この不安定な現代において、『いのちの大切さ』を来園者に伝えること、そして動物園・水族館が平和と共生を目指す存在であること、さらに存在基盤である調査研究や保全教育そして種保全への注力を通して、多くの社会課題を解決する場であることを世界へ向けて示していく重要な責務が私たちにはあると考えます。

このたび JAZA は、今後の 10 年を見据えた新たなビジョン『JAZA 将来構想 2025』を策定しました。本構想は、延べ 5,500 名もの内外関係者の意見を集約し、広く多様な視点を取り入れて策定されたものです。社会が厳しい状況にある今をポジティブに捉え、加盟園館が互いに知恵を出し合い協力しながら歩むことで艱難辛苦を乗り越え、より良い未来の実現に向けた社会変革を先導できると信じています。

『JAZA 将来構想 2025』が、私たち自身の将来を共に考え、対話を重ね、結びつきを深めるための確かな基盤となることを、心より願っています。

2025 年 5 月 29 日

公益社団法人日本動物園水族館協会  
会 長 村田 浩一